

交通

快適な移動手段の充実として“オンデマンドバス実証実験”が旭区若葉台で行われ、延べ851名が利用しました。

オンデマンドバスとは、利用者の予約に応じて経路スケジュールを立て運行するバスです。子育て世代や高齢者の移動しやすい環境づくりを目指します。(※車両のイメージとしては、6~9人乗りのボックスタイプの乗用車です)

泉区下和泉地区では、地元組織による会員制のコミュニティバス「Eバス」を平成14年より運営し、誰でも乗れる路線バスへの移行を目指し活動してきました。その取り組みが実り、平成26年4月から路線バスとして本格運行を開始しています。

泉区野七里では、地域住民が実行委員会を立ち上げ、バス停に隣接するコンビニ併設型コミュニティー施設「野七里テラス」が昨年10月にオープンしました。さらにバス停や当施設までの移動手段とし



乗用カート試乗会にて

て、住民のボランティアがカートを運転し、運行出来るよう計画をしております

まちの発展においては交通手段の発展が不可欠です。外出の機会が多い方は健康寿命が長いとの統計も出ています。環境に適した交通網をしっかりと確保して行くことが持続可能な社会づくりの一環となる事でしょう。



令和元年9月19日FCバス出発式及び試乗会：泉区若葉台

その他：横浜市におけるバス交通
横浜市はSDGs持続可能な社会を目指して、「Zero Carbon Yokohama」を掲げ、地球温暖化対策・エネルギー施策を強化した取り組みを進めています。

公共交通の低炭素化を目指し横浜市営バスが水素を燃料とする燃料電池バス(以下、FCバス)を昨年10月より試験導入しています。

文化・芸術

横浜市では新しい劇場を設立しようと、設置検討委員会が開設され議論がされている最中です。

11月末には、「横浜の経済発展の為に必要である」との見解を元に検討委員会は林市長へ提言書を提出し、MM21地区に2500席規模で世界に誇れるオペラハウス劇場の建設を検討している様です。

文化芸術についてより深く知識を得て、劇場のニーズや経済効果等を把握する為、びわ湖ホール・愛知芸術劇場・横須賀芸術劇場へ視察へ行って参りました。

生音で聴かせるオペラは客席に音を届ける事やオーケストラ等の場所の確保が必要な為に、1800席程度しか用意が出来ず、一度の公演では採算が取れなくなっています。

びわ湖ホールの建設費用は270億円ですが、内訳のその他に、自動車800台が停められる駐車場の建設費用やびわ湖の埋め立て費用を加算していません。

年間の指定管理料は約9.5億円です。現在、21年経ち、追加修繕工事費に70億円が必要で滋賀県の負担となっています。

愛知芸術劇場は栄駅と直結しており、都心の中にこの様な立派な劇場が作られています。



滋賀県びわ湖ホール

高さを出しているので客席も少し多めに取れています。現在、25年経ち、改修工事に3年間で116億円を投資しています。

どの施設も立派で素晴らしく演目も魅力的でした。オペラに興味を持てたのは事実です。

しかし、横浜市には神奈川県民ホールがありますし、国立劇場には日帰りで行けます。

まだ日本には根付いていない「オペラ」を観る施設を横浜に建設する前に、目の前にある身近な課題の解決に取り組んでいかなければならないと思います。

素晴らしい劇場があるに越したことはありませんが、一度作ってしまうと負の遺産になりかねなく、さらに財政の悪化に拍車をかけてしまう事に私は不安を感じました。引き続き劇場の必要性と費用対効果について調査を続けていきたいと思っています。



愛知県芸術劇場



横須賀芸術劇場

栄区 ミニニュース

現在、運転免許証の初回更新者と違反運転者の手続きは、運転免許センターに限定されております。昨年12月に林市長は、運転免許センターまでの所要時間を要する青葉区や栄区などで窓口拡大を試行し、窓口サービス及び利便性の向上を引き続き取り組むように要望書を提出されました。私も栄区近郊にお住まいの方々の生活の利便性が向上するように力を尽くしていきたいと思っています。

長谷川えつこ政務活動事務所

〒247-0009 横浜市栄区鍛冶ヶ谷2-1-2 セントレージビル101

TEL : 045-390-0601 FAX : 045-392-5411

メール : e-hasegawa@e-linksvc.com

オフィシャルサイト <https://e-linksvc.com/etsuko.hasegawa/>